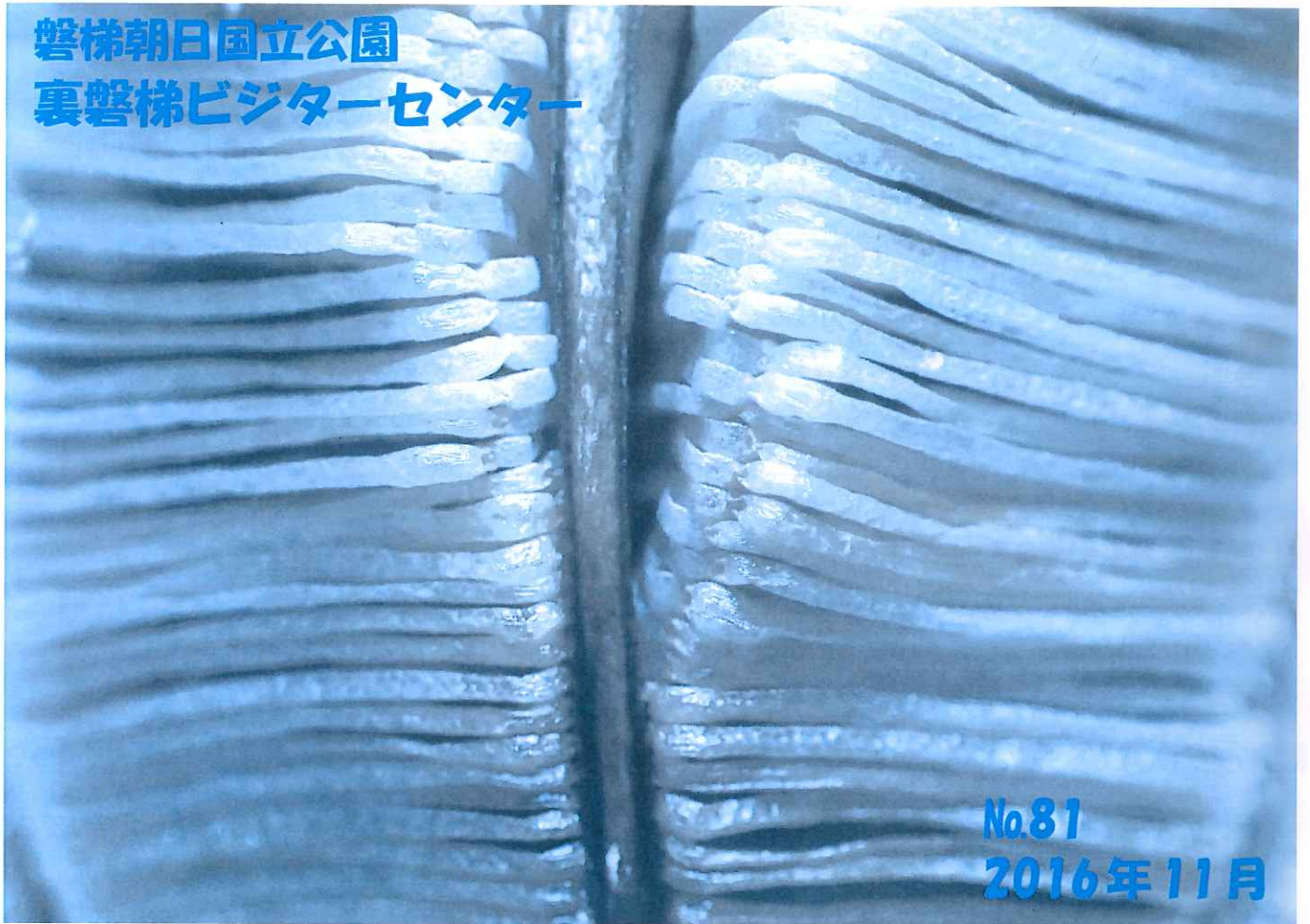


裏磐梯だより



磐梯朝日国立公園
裏磐梯ビジターセンター



No.81
2016年11月

小さな世界 ⑯

落葉した木立のなかを、冷たい風がひと吹き。どこかものさびしい森の雰囲気、冬の足音が次第に大きくなっていることを感じます。それでも今は今で、夏に花をつけていた植物が、あっと驚くような一面を見せてくれたりもします。薄いぺらぺらしたものがぎっしりと隙間なく積み重なっているのは、オオウバユリの種子。まるで、几帳面な人が積み重ねたかのようにも見える構造ですが、他のなにものでもない自然の成せる業であることに、驚きを隠せません。背が高く何かと目立つ植物ですが、一生を通じて背が高くなるのは、繁殖期の最後の一年だけ。種子から芽を出してから6~8年は、葉を増やしながらか成ちします。そして、一生に一度だけ茎を伸ばし、花を咲かせて実をつけます。一つの実のなかに入っている種子を数えると、なんとその数592個！一生分のエネルギーの詰まった命のバトンたちは、これから強い木枯らしに吹かれ、旅に出ることでしょう。

(「オオウバユリの種子」 2016年11月7日)

20 年 月 日
来館記念スタンプをどうぞ